

X 進行管理(点検評価) シート

【方向性】 I ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(1)確かな学力の育成			担当課	担当課評価
細 施策	①学力向上対策の推進			教育指導課	B
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上検討委員会(平成26年度より学力向上研究委員会)において、本市の児童生徒の学力の現状と課題を把握しながら新学習指導要領への対応を図ります。 ・児童生徒の家庭学習の習慣化や学力向上への具体的な取組を指導し、学力向上を推進していきます。 				
平成26年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・川越市小・中学生学力向上プランの趣旨を踏まえ、市立学校の校長、教員で構成した小学校部会、中学校部会、学級経営部会を組織し、年間を通して学力向上研究委員会を開催しました。 ・本市独自の川越市児童生徒学習・生活状況調査を実施し、児童生徒の実態の把握に努めました。 ・各種学力調査の分析結果から指導の手立てを示し、教職員向けの教育情報誌を発行しました。 				
成果実績	項目名(単位)	H24	H25	H26	
	授業以外で1時間以上勉強する児童の割合(小学校5年生)(%)	40	41	42	
	授業以外で1時間以上勉強する生徒の割合(中学校2年生)(%)	53	55	51	
評価の理由	学力調査の分析結果をもとに各教科の研究部会が検討した教育情報を学校向けに提供することで、日々の授業の充実が図られており、おおむね順調に進ちよしています。				
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会と各小・中学校が目標を共有し、児童生徒一人ひとりの学力向上に向けた計画的・継続的な取組を実施してまいります。 ・保護者との連携を図り、児童生徒の学びの基盤となる家庭学習の習慣化を推進していきます。 				

施策の柱	(1)確かな学力の育成			担当課	担当課評価
細 施策	②市独自の少人数学級編制の推進 (平成25年度より、各学校の課題に応じた学校支援事業の推進として実施)			学校管理課	B
施策の内容	積極的な生徒指導を推進し、子どもたちの心の教育・学力向上・いじめの未然防止・少人数学級編制等、各学校におけるさまざまな課題を解決するため、市費による教員(オールマイティーチャー)を配置します。(オールマイティーチャーの配置は平成25年度から)				
平成26年度実績	校長の創意を生かした企画書に基づき、各学校の課題に応じて、市内の小学校2校に2人(内1人は理科)、中学校11校に11人(国語2人、社会1人、数学1人、理科4人、保健体育2人、美術1人)の市費による教員を配置しました。これにより、子どもたち一人ひとりに応じたきめ細かな教育活動を推進することができました。				
成果実績	項目名(単位)	H24	H25	H26	
	臨時講師配置状況(人)	7	11	13	
	対象校に配置した率(%)	70	100	100	
評価の理由	各学校の課題に応じた活用により、きめ細かな指導ができました。配置校では教員が1人増員されたことにより、生徒指導主任や教育相談主任に機動力が生まれ、生徒指導体制の充実が図れました。これにより、不登校生徒数の減少、いじめの発生件数の減少、学力の向上等の成果を得たこと等、おおむね順調に進ちよしています。				
改善の方策等	配置した学校での効果を検証しながら、必要とする学校に対し各課題に応じて教員を配置し、生徒指導体制の充実や学力向上に向け、子どもたち一人ひとりに応じたきめ細かな教育活動を推進していきます。				

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進

【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱		(1) 確かな学力の育成			
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
施策評価	①学力向上対策の推進	教育指導課	B	B	B
	②市独自の少人数学級編制の推進(平成25年度より、各学校の課題に応じた学校支援事業の推進として実施)	学校管理課	B		
学識経験者等意見	オールマイティーチャーターの配置については、基本的な学習以前の問題を解決しなければ学力向上には繋がらないため、引き続き実施していただきたい。				

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(2)教育に関する3つの達成目標の推進			担当課	担当課評価
細 施 策	①学力（読む・書く・計算）向上の推進			教育指導課	B
施策の内容	学習指導要領に基づき、読む・書く・計算の観点を中心に、子どもたちの学力の土台づくりを進め、小・中学校の連携を踏まえ家庭の協力を得た学力向上の推進を図ります。				
平成26年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上研修会を実施し、結果分析の仕方や研究資料の活用方法等について研修を進め、基礎的・基本的な学力内容を定着させました。 ・検証結果の分析プログラムを全小・中学校に配布し、各学校が自校の分析結果をもとに対応策を検討できるようにしました。 ・教育情報誌(小江戸川越寺子屋タイムズ)を計画的に発行し、全小・中学校に配布することにより、教員の指導力向上を図りました。 				
成果実績	項目名(単位)	H24	H25	H26	
	小学校「読む・書く」、「計算」達成率90%以上の項目(各学年2項目×6学年)	12項目／12項目	12項目／12項目	—	
	中学校「読む・書く」、「計算」達成率90%以上の項目(各学年2項目×3学年)	4項目／6項目	4項目／6項目	—	
評価の理由	各学校の学力向上策の中に「教育に関する3つの達成目標」を位置付けることで、学習内容の定着が図られるなど、おおむね順調に進ちよくしています。				
改善の方策等	川越市小・中学生学力向上プランを踏まえ、児童・生徒の思考力等の育成とのバランスを図りながら、基礎的・基本的な知識・技能を習得させる取組を進めてまいります。				

施策の柱	(2)教育に関する3つの達成目標の推進			担当課	担当課評価
細 施 策	②規律ある態度の育成			教育指導課	B
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・小・中学校における基本的な生活習慣や学習習慣を身に付けさせます。 ・学校が家庭や地域と連携を密にし、思いやりや感謝の心、公共心、善悪を判断する力など、豊かな心を育みます。 				
平成26年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・各小・中学校においては校種間の連携を通して、学習の仕方や生活のきまり等について9年間を見通した生活習慣、学習習慣の定着に向けた取組を進めています。 ・多くの学校で「朝のあいさつ運動」を実施し、自校でのぼりを作る等の取組を進めています。 ・学力向上研究委員会学級経営部会で、規律ある態度を育成する手立てについて検討し、その情報を各校に伝えることで教職員の指導力の向上を図りました。 				
成果実績	項目名(単位)	H24	H25	H26	
	小学校・規律ある態度達成率80%以上の項目(各学年12項目×6学年)	69項目／72項目	69項目／72項目	67項目／72項目	
	中学校・規律ある態度達成率80%以上の項目(各学年12項目×3学年)	33項目／36項目	34項目／36項目	34項目／36項目	
評価の理由	児童生徒質問紙調査の結果、ほとんどの項目で達成率が80%以上となっており、おおむね順調に進ちよくしています。				
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> ・学校指導訪問等の機会をとらえ、各校の実態に即した取組を支援してまいります。 ・学級経営部会を計画的に実施し、具体策を検討してまいります。 				

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(2)教育に関する3つの達成目標の推進			担当課	担当課評価
細 施 策	③体力向上の推進			教育指導課	B
施策の内容	豊かな人間性や生きる力の重要な要素である基礎的な体力を向上させるために、家庭や地域との連携を図りながら、児童生徒の発達段階に応じた効果的な体力向上の取組を充実します。				
平成26年度実績	<ul style="list-style-type: none"> 平成26年度川越市児童生徒体力向上推進委員会で、体力向上全体研修会や授業研究会を実施し、体力向上広報紙「じゃんぷ」「川越市小・中学校新体力テスト一覧」を発行しました。 小中連携した効果的な授業の研究を進め、研究授業を通して効果の検証を図りました。 体力課題解決シートを活用し、体育授業の中に帯状に補強運動を取り入れた授業実践を広めることができました。 				
成果実績	項目名(単位)	H24	H25	H26	
	前年度より結果のよい種目(小学校)	反復横とび(男子) シャトルラン、50m走(女子)	上体起こし(男女) シャトルラン(男女)	上体起こし(男子) 長座体前屈(女子)	
	前年度より結果のよい種目(中学校)	上体起こし(男女)、長座体前屈(男女)、反復横とび(男女)	長座体前屈(女子) ボール投げ(女子)	握力(男女) 立ち幅跳び(男女)	
評価の理由	運動時間の確保と運動する楽しさを重視した体育授業や朝マラソン等体育的活動が各学校の工夫のもとに展開されており、おおむね順調に進ちよくしています。				
改善の方策等	業前・業間運動や体づくり運動の実施、ラジオ体操の推進、家庭や地域で日頃からスポーツに親しむ習慣づくり等、体力向上の効果的な取組を広く示し、各学校の工夫を凝らした取組を支援してまいります。				

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(2)教育に関する3つの達成目標の推進				
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
	①学力(読む・書く・計算)向上の推進	教育指導課	B	B	
	②規律ある態度の育成	教育指導課	B		
③体力向上の推進	教育指導課	B			
学識経験者等意見	<ul style="list-style-type: none"> 体力向上の推進については、体育の授業だけでできるものではないため、日常的な運動に親しむ機会を作るなど、今後も推進していただきたい。 体力は学ぶ基礎になるものであり、児童生徒にとって重要なものであるため、引き続き体力の向上を図っていただきたい。 				B

【方向性】 1 生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(3)校種間連携の推進			担当課	担当課評価
細 施 策	①小学校・中学校連携の推進			学校管理課	B
施策の内容	<p>・市内全小中学校を、9ブロックに分け、それぞれのブロックごとに小中学校間の連携を一層進めてまいります。</p> <p>・校長のリーダーシップのもと、教育委員会からも指導主事を配置するなどサポートをしながら、課題を明確にして各学校で行ってきた連携の取組の見直しや改善を図り、学校教育の一層の充実・活性化を図ります。</p>				
平成26年度実績	<p>・連携事業として、教員間では授業の参観及び研究協議等が行われ、教育課程や特別支援教育などの合同研修会が実施されました。児童生徒間では、小6の部活動体験や1日体験入学が中学校で実施され、音楽会や運動会等での交流も図られました。また、児童生徒が地域の行事を通して、地域社会と交流し、思考力・判断力・コミュニケーション能力の伸長も図られました。</p>				
成果実績	項目名(単位)	H24	H25	H26	
	中学1年生不登校者数(人)	27	35	47	
	中学1年生全体に占める不登校者数の割合(%)	0.95	1.29	1.67	
評価の理由	<p>中学1年生の不登校者数は、徐々に増加傾向にあります。しかしながら、合同研修会(70%)、授業公開・研究協議(68%)、連絡会・情報交換会(66%)などが、成果としてあげられ、各校が研修を通して教職員の指導力向上を図り、小中の系統を意図した学習指導、生徒指導等に取り組んでおり、おおむね順調に進ちよしています。</p> <p>※()は、アンケート調査結果による</p>				
改善の方策等	<p>多くの学校で課題ととらえられているのは、日程調整、時間と場の工夫(54%)です。今後、児童生徒間の新しい交流や小中9年間の系統性を意識した授業、指導計画づくりを含めた連携事業の改善・深化に努めます。</p>				

施策の柱	(3)校種間連携の推進			担当課	担当課評価
細 施 策	②中学校・市立川越高等学校連携の推進			学校管理課	B
施策の内容	<p>・中学校と市立高等学校が一層連携し、双方の円滑な交流や相互理解、授業改善や教員の指導力向上に向けた取組を図ります。</p> <p>・「第二次市立川越高等学校将来構想懇話会」の報告結果を基に、中高一貫教育について調査研究を進めます。</p>				
平成26年度実績	<p>市立川越高等学校と近隣3中学校の平成26年度研究委嘱校間では、授業や体育祭などの学校行事の参観、高校教員による中学校での出前授業や進路に関する説明、中学生による上級学校訪問や生徒相互の部活動交流等を実施しました。中学生による高校の体験授業では、学年全体で参加することも行われ、連携が深められました。</p>				
成果実績	項目名(単位)	H24	H25	H26	
	教員・保護者間の交流活動件数(件)	16	15	19	
	生徒間の交流件数(件)	13	17	11	
評価の理由	<p>出前授業や体験授業、部活動の相互交流や合同練習などが積極的に取り込まれ、教員の意識も高くなり、おおむね順調に進ちよしております。今後、より多くの市内各中学校との連携に拡大することが課題となっています。</p>				
改善の方策等	<p>より多くの中学校との連携が実施できるようブロックの見直しを行うとともに、系統的な学習指導・生徒指導・進路指導に生かす校種間連携を目指し、さまざまな取組を実施してまいります。</p>				

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(3)校種間連携の推進			担当課	担当課評価
細 施 策	③幼稚園・保育園・小学校連携の推進			教育指導課	A
施策の内容	幼保小連絡懇談会を通して、幼稚園、保育園、小学校のそれぞれの役割の理解を深めるとともに、課題解決に向けた情報を共有するとともによりよい連携のあり方について話し合い、幼児期の教育と小学校教育との円滑な接続を図ります。				
平成26年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・研究テーマを「子どもの発達と学びの連続性をはぐくむ幼保小の連携」と設定し、その中から研究の視点を「コミュニケーション能力を育む活動について」と絞り込みました。 ・幼保小連絡懇談会を6会場で実施しました。 ・各会場での記録を冊子にまとめ、関係者に配布するとともに、公民館等に閲覧用として配布しました。 				
成果実績	項目名(単位)	H24	H25	H26	
	参加園・校数	102	104	105	
	参加人数(人)	228	216	214	
評価の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・幼保小連絡懇談会に105の園・校が参加し、年間を通してテーマに基づき連携に取り組みました。 ・研究の視点をコミュニケーション能力を育む活動に絞ることで、幼保小の課題解決に向けた情報共有が可能となり、順調に進ちよくしています。 				
改善の方策等	幼保小連絡懇談会の成果を各幼稚園・保育園・小学校へ周知し、今後も参加園・参加者の拡充を図り、幼保小の円滑な連携を図ります。				

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(3)校種間連携の推進				
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
	①小学校・中学校連携の推進	学校管理課	B	B	
	②中学校・市立川越高等学校連携の推進	学校管理課	B		
③幼稚園・保育園・小学校連携の推進	教育指導課	A			
学識経験者等意見	<ul style="list-style-type: none"> ・校種間連携については、子どもたちが小学校から中学校に行くときなど新しい校種に進むときに、大きな不安や期待があるので、それらを前向きに受け止められるように、部活動等体を動かして楽しめるものなどによる交流を今後も実施していただきたい。 ・校種間で情報を共有することは良い取組だと思うので、引き続き実施していただきたい。 				B

【方向性】 I ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(4)生徒指導の充実						担当課	担当課評価
細 施 策	①道徳教育の充実						教育指導課	B
施策の内容	豊かな心を育む道徳教育の一層の充実と道徳的実践力の向上を、学校の教育活動全体で推進します。							
平成26年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育推進教師研修会を年2回実施しました。 ・学校訪問で公開授業を実施し、授業や分科会の協議を通して指導力の向上を図りました。 							
成果実績	項目名(単位)	H24		H25		H26		
	教育に関する3つの達成目標・規律ある態度「整理整頓・あいさつ・やさしい言葉づかい・集団の場での態度・清掃美化活動」達成率80%以上の項目(各学年5項目)	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	
		29/30項目	14/15項目	29/30項目	15/15項目	29/30項目	15/15項目	
評価の理由	道徳教育推進教師研修会や学校訪問等を通して、指導力の向上を図ることができ、おおむね順調に進ちよくしています。							
改善の方策等	道徳教育推進教師を中心とした校内組織を整備し、家庭・地域との連携した取組や道徳授業の充実を推進します。							

施策の柱	(4)生徒指導の充実						担当課	担当課評価
細 施 策	②いじめ・不登校対策の推進						教育指導課	B
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校1年生で急増するいじめ・不登校問題の対応については、小中連携を中心とした校種間連携の中で取組を推進します。 ・いじめ・不登校対策検討委員会を通して、具体的な取組を推進します。 							
平成26年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ未然防止対策については、各学校の相談体制、校内いじめ対策委員会、アンケート実施、児童生徒の活動などの進ちよく状況を毎月確認して取り組みました。 ・小中連携を中心とした校種間連携の中で定期的に学校訪問を実施することができました。 ・いじめ・不登校対策検討委員会を組織し、いじめや不登校問題の防止に向けた「教育相談アンケート」や教員の指導力の向上を図るためのリーフレットを作成し、市内全教員へ配布しました。 ・ネットパトロール及びいじめ相談電子窓口を通年で実施し、23件の対応を行いました。 							
指標及び説明	【指標】 中学校の不登校出現率				【説明】 市内全中学校の生徒数のうち不登校生徒数の割合			
	単位	現在値(H21)	実績値				目標値(H27)	
指標の推移			H22	H23	H24	H25	H26	
	%	3.33	2.63	2.59	2.17	1.97	2.18	2.75
評価の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・小中連携の推進や不登校傾向の見られる児童生徒に対し早期対応に努めることで、不登校の出現率が目標値を下回り、おおむね順調に進ちよくしています。 ・「川越市いじめの防止等のための基本的な方針」を策定し、市民や学校等に公開することで、市全体でいじめ問題の解決に取り組む方向性を明らかにしました。 ・市の方針を踏まえ、市立全小・中学校で「学校いじめ防止基本方針」の見直しを進め、いじめ問題への早期対応と、いじめの未然防止に向けた取組の充実を図りました。 							
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ問題の早期発見に向け、定期的に児童生徒アンケート及び保護者アンケートを実施し、いじめの早期発見・早期対応に万全を期してまいります。 ・川越市児童生徒連絡協議会と連携し、各学校の児童生徒が主体となったいじめ撲滅に向けた取組を推進してまいります。 							

【方向性】 I ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(4)生徒指導の充実						担当課	担当課評価
細 施策	③教育相談の充実						教育センター分室 (リバーラ)	A
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・市内全中学校に配置している、さわやか相談員の活用を図り、不安や悩みを持つ生徒が相談しやすい教育相談体制を推進します。 ・スクールカウンセラーや教育センター分室(リバーラ)の臨床心理士など、専門的知識を有する人材を活用し、小学校の児童、保護者に対する教育相談体制の充実を図ります。 							
平成26年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・市内全中学校に1人ずつ配置したさわやか相談員が、児童・生徒、その保護者等延べ9,931人の相談に対応しました。 ・週1回から2週間に1回の割合で配置されているスクールカウンセラーが生徒やその保護者への面接、小学校の児童、教職員への助言など、併せて5,822回の相談を行いました。 							
指標及び説明	【指標】さわやか相談員がかかわりを持ち、解決した割合				【説明】市内全中学校に配置したさわやか相談員が受けた相談件数のうち解決した(相談が終了した)件数の割合			
指標の推移	単位	現在値(H21)	実績値				目標値(H27)	
			H22	H23	H24	H25	H26	
	%	66.8	82.9	84.0	84.2	86.6	87.3	75.0
評価の理由	さわやか相談員がいじめや不登校、学業や友人問題、家庭環境などの相談に応じ、解決した(相談が終了した)割合が目標値を上回る87.3%となり、順調に進ちよくしています。							
改善の方策等	今後もさわやか相談員、スクールカウンセラーなどとの連携を深め、不安や悩みをもつ児童生徒やその保護者への教育相談体制の充実を図ります。							

施策の柱	(4)生徒指導の充実						担当課	担当課評価
細 施策	④関係機関との連携事業						教育指導課	A
施策の内容	課題解決のために、教育センター分室(リバーラ)、市内こども安全課、児童相談所、警察署等の関係機関と連携し、情報交換や対応策を検討します。							
平成26年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・教育センターといじめ・不登校対策検討委員会を合同で組織し、問題解決のために協力して取り組みました。 ・児童相談所とは児童虐待の問題に対して、こども安全課と情報を共有するなど連携して対応しました。 ・児童・生徒の問題行動等に対して、これまで以上に川越警察署生活安全課との連携を深め、学校の支援体制を整備しました。 ・スクールサポーターの配置を要請し、4校に配置されました。 ・学校・地域・警察関係者によるサポートチームが11校で組織されました。 							
成果実績	項目名(単位)	H24	H25	H26				
	サポートチームの編成数(校)	8	9	11				
評価の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会と川越警察署(生活安全課)の信頼関係を深め、児童生徒の問題等に対し教育委員会が各種調整を図ることで、学校と警察の連携がこれまで以上に円滑に進められ、順調に進ちよくしています。 ・関係機関等と積極的に連携し、迅速な対応が進められました。 							
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導に関する連携では、指導上配慮を要する児童生徒について事前に情報交換するなど、問題発生時のみの連携にならないようにします。 ・多様な生徒指導の問題への対応について、各学校の取組を集め指導の手立てを広めるなど、迅速に問題解決が図れるようにします。 ・各学校の実情に応じ、今後更に警察との連携を進め、学校と一体となった取組を行ってまいります。 							

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(4)生徒指導の充実			担当課	担当課評価
細 施 策	⑤いきいき登校サポートプランの推進			教育センター分室 (リベール)	A
施策の内容	市内小中学校における不登校問題の解消に向けて、大学生による不登校児童生徒支援事業の「いきいき登校サポートプラン」を更に推進し、学校、専門家、地域が連携し、一体となった取組を進めます。				
平成26年度実績	<ul style="list-style-type: none"> 平成26年度は、20人の学生が、延べ342回の活動を行いました。 臨床心理士を週1日、年間45日、教育センター分室に配置し、特に配慮を要する難しいケースについてより専門的な対応を実施できました。 				
成果実績	項目名(単位)	H24	H25	H26	
	活動した学生 実人数(人)	11	19	20	
	活動回数 (回)	163	320	342	
評価の理由	活動した学生の人数および活動回数が増加しました。また、引きこもりなど難しいケースにおいても児童生徒との信頼関係をもとに対応し、不登校問題の解消に向けて順調に進ちよくしています。				
改善の方策等	関係の大学と連携し、大学生による不登校児童生徒支援を充実させるとともに、サポートプランを更に活用するよう各学校への呼びかけを強化します。臨床心理士による対応をより一層推進します。				

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(4) 生徒指導の充実				
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
	①道徳教育の充実	教育指導課	B	A	
	②いじめ・不登校対策の推進	教育指導課	B		
	③教育相談の充実	教育センター分室(リベール)	A		
	④関係機関との連携事業	教育指導課	A		
⑤いきいき登校サポートプランの推進	教育センター分室(リベール)	A			
学識経験者等	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒アンケートは、子どものいろいろなサインを早めに見つけられるため、できるだけ短時間で集計し、対応していただきたい。 いきいき登校サポートプランについては、不登校に陥りがちな児童生徒は心身的に弱い部分が若干あると思うが、若い年齢の方と話をすることにより心を開く場面が増えることも考えられるため、人数を増やし、推進していただきたい。 				A

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(5)進路指導・キャリア教育の充実			担当課	担当課評価
細 施 策	①地域・関係機関と連携した社会体験活動の充実			教育指導課	A
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒一人ひとりを大切にしたい進路指導・キャリア教育の一層の充実に努めます。 ・中学校では、地域にある事業所や公共施設での体験活動を通して川越市中中学生社会体験事業の充実を図ります。 				
平成26年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導・キャリア教育研修会を実施し、小学校のキャリア教育の実践発表を行いました。 ・川越市中中学生社会体験を全校で実施し、終了後、今後の生活にどう生かすかについてのアンケート調査を実施し、結果を指導に活用しました。 ・川越市中中学生社会体験実施協議会を開催し、関係団体との連携を図り事業を円滑に運営することができました。 				
成果実績	項目名(単位)	H24	H25	H26	
	協力事業所数(箇所)	798	795	822	
評価の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・事後のアンケート調査によると、「働くことの大切さや意味を考える機会となった」「仕事をするために協力する大切さが理解できた」「社会のきまりを守る大切さを理解できた」「働くことの厳しさ大変さを知ることができた」等の項目で、98%以上の生徒が肯定的な回答を示すなど、順調に進ちよくしています。 ・事業所から「職員が仕事を基本から見つめ直す機会となり、大変メリットがある」「患者様が笑顔になる」等の意見が寄せられ、地域の中で本事業が円滑に浸透している様子が見られます。 				
改善の方策等	社会体験の事後指導の中で、体験を今後の生活に生かす視点を取り入れるようにしていきます。				

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(5)進路指導・キャリア教育の充実				
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
	①地域・関係機関と連携した社会体験活動の充実	教育指導課	細施策	施策の柱	
			A	A	
学識経験者等意見	特になし				A

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(6)科学体験活動の推進			担当課	担当課評価
細 施 策	①科学わくわくラーニングプログラム事業の推進			教育指導課	A
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校6年生を対象に、小学生科学体験事業を実施し、講演会、実験実習、科学施設の見学や体験活動の取組を充実します。 ・理科実験助手派遣事業、小・中・大学連携理科ふれあい事業を充実させ推進します。 				
平成26年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生科学体験事業として、市内小学校6年生77人を対象に、1日目に講演会、2日目に実験・実習、3日目に日本科学未来館で体験学習を行いました。 ・理科実験助手派遣事業により、小学校10校に理科実験助手を派遣しました。 ・小・中・大学連携理科ふれあい事業を小学校14校・中学校2校で実施しました。 				
成果実績	項目名(単位)	H24	H25	H26	
	理科実験助手派遣事業派遣数(校)	10(小:7 中:3)	12(小:9 中:3)	16(小:10 中:6)	
	小・中・大学連携理科ふれあい事業(校)	14(小:11 中:3)	13(小:9 中:4)	16(小:14 中:2)	
評価の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・科学体験事業に参加した児童や小・中・大学連携理科ふれあい事業を実施した学校の児童生徒から、理科に対する興味・関心が高まったという感想が寄せられています。 ・理科実験助手事業の推進により、理科授業の工夫・改善や理科室の環境整備等が順調に進ちよくしています。 				
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> ・科学体験事業や小・中・大学連携理科ふれあい事業において、大学や研究機関との連携を積極的に進め、理科に関する興味・関心を広げるようにします。 ・小学校に理科実験助手を計画的に派遣し、市内小学校の実験準備を円滑にするとともに教員の指導技術を高められるようにします。 ・市立小・中学校から研究推進校を指定し、理科教育の振興を図るようにします。 				

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(6)科学体験活動の推進				
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
	①科学わくわくラーニングプログラム事業の推進	教育指導課	A	A	
学識経験者等	科学が発展し、便利な物があたりまえにある中で、食べるものやエネルギー等がどうやって作られているのか、小さいうちから疑問を持つことができるような環境づくりをしていただきたい。				

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(7)地域に開かれた特色ある学校づくりの推進			担当課	担当課評価
細 施 策	①学校評議員制度の充実			学校管理課	B
施策の内容	学校は、評議員に学校の現状と課題について情報提供を行い、情報の共有化を図るとともに、保護者や地域住民から信頼される学校経営ができるよう学校評議員制度の充実を図ります。				
平成26年度実績	学校の現状と課題に即して、積極的な意見交換のもと、活発な話し合いによる学校評議員会議が実施されています。特に各学校の学校評価において、学校評議員が学校関係者評価の構成員である割合が大きく、開かれた学校づくりに寄与していると考えられます。				
成果実績	項目名(単位)	H24	H25	H26	
	学校評議員が学校関係者になっている学校	55/56	56/56	56/56	
	学校評価の公表率	56/56	56/56	56/56	
評価の理由	すべての市立学校で、学校評議員が学校関係者における評価者になっており、学校経営に関わる情報の共有化が図られています。学校は、保護者や地域住民等の意見の把握、反映だけでなく、学校運営の状況等を周知するなど、おおむね順調に進ちよくしています。今後、更に結果を公表する場や機会を増やしていく必要があります。				
改善の方策等	各学校で教育活動等について計画的に自己評価を行い、その結果を公表するとともに、多様な意見を幅広く求め、学校運営に生かすために積極的な情報提供を行っていきます。				

施策の柱	(7)地域に開かれた特色ある学校づくりの推進			担当課	担当課評価
細 施 策	②地域人材活用事業の充実			学校管理課	A
施策の内容	小・中・特別支援学校が、特色ある学校づくりを推進していくため、多様な体験活動が展開できるように関係団体や地域の方々と連携し、地域人材活用事業の一層の充実を図ります。				
平成26年度実績	市立小中学校50校が、トータルで401回、44団体と個人併せて607人の地域人材からそれぞれの学校において必要な支援をいただきました。児童生徒は、地域人材との交流によって、豊かな体験を得るばかりでなく、表現力やコミュニケーション能力を伸ばすことができました。年度当初予定回数275回に対して141%の実績で、十分に活用が図れました。				
成果実績	項目名(単位)	H24	H25	H26	
	活用回数(回)	205	220	401	
評価の理由	各学校からは、地域人材活用に対する期待が高く、活用回数を増やしたい意向です。平成26年度は、学校の実態や地域人材の活動状況等に応じて適宜、活用の追加承認を行い、年度当初予定回数以上に執行できました。順調に進ちよくしています。				
改善の方策等	今後も、学校評議員及び日本語指導ボランティアに対する報償金の執行状況を的確に把握し、予算を適切に振り分け、地域人材の活用回数をできるだけ増やすことによって、更に各校の特色ある教育活動の充実を図ります。				

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(7)地域に開かれた特色ある学校づくりの推進			担当課	担当課評価
細 施 策	③日本語指導ボランティアの充実			学校管理課	B
施策の内容	各学校に在籍する外国籍の児童生徒のうち、特に日本語指導が必要とされる児童生徒に対して、日本語指導ボランティアの派遣を推進し、日本語指導、学校生活への適応指導の支援など、日本語指導ボランティアの充実を図ります。				
平成26年度実績	平成26年度は、市立小中学校17校に在籍する外国籍等の児童・生徒で、日本語指導ボランティアの申請があった36人中、33人に対してボランティア20人を週1～2回派遣しました。派遣回数は延べ611回でした。				
成果実績	項目名(単位)	H24	H25	H26	
	申請受付数(人)	37	43	36	
	日本語ボランティア派遣児童生徒数(人)	28	30	33	
評価の理由	日本語指導ボランティアを派遣することによって、該当児童生徒が授業内容の理解を深め、また、周囲とのコミュニケーションをとる上で手助けとなる支援と指導を行うことができました。しかし、児童生徒が必要とする回数の派遣ができないことが課題として挙げられます。				
改善の方策等	今後、日本語指導を必要とする外国籍等の児童生徒が増え、またその母語の多様化によって求められる日本語指導ボランティアが指導することのできる言語も多様化していくことが予想されます。これらに対応できるよう効率的な派遣方法や人材確保のための関係機関からの連携を図っていきます。				

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(7) 地域に開かれた特色ある学校づくりの推進				
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
	①学校評議員制度の充実	学校管理課	B	B	
	②地域人材活用事業の充実	学校管理課	A		
③日本語指導ボランティアの充実	学校管理課	B			
学識経験者等	日本語指導ボランティアについては、ボランティアを必要とする子どもは本当に日本語がわからない子どもだと思われるため、派遣回数を増やすなど充実を図っていただきたい。				

【方向性】 1 生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(8)教職員の資質向上					担当課	担当課評価
細 施 策	①経験・職能別研修の充実					教育センター	A
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の経験段階に応じて職務遂行に必要な知識・技能等の習得を図る経験者研修の充実を図ります。 ・教職員の職務に応じた知識・技能等の習得を図る職能別研修の充実を図ります。 						
平成26年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・経験段階に応じた研修として、初任者研修、5年経験者研修、10年経験者研修、20年経験者研修等を計画的に実施しました。 ・職能別研修として、主幹教諭、教務主任、学校事務職員、栄養教諭・学校栄養職員、初任者研修拠点校指導教員、学校保健・道徳教育・特別支援教育・教育相談・学校図書館教育・情報教育・進路指導キャリア教育の各担当者、非常勤職員等を対象とした研修会を開催しました。 						
指標及び説明	【指標】 教職員の研修参加回数			【説明】 教職員一人が1年間に研修に参加する回数			
指標の推移	単位	現在値 (H21)	実 績 値				目標値 (H27)
	回	4.1	H22 4.4	H23 5.1	H24 5.2	H25 4.9	H26 4.8
評価の理由	研修体系と研修内容の見直しを行い、研修の充実を図りました。研修回数の実績値は目標値を上回っており、順調に進ちよくしています。						
改善の方策等	今後も経験者研修等、教職員のライフステージに応じた研修を重視し、経験に応じた資質・能力の向上を図っていきます。また、指導者や講師等についても今日的な教育課題に即した研修となるよう質の向上に努めます。						

施策の柱	(8)教職員の資質向上					担当課	担当課評価
細 施 策	②管理職等研修の充実					学校管理課	B
施策の内容	教育に対する理念や識見を高め、管理職としてのリーダーシップを発揮できるよう管理職等研修の充実を図ります。						
平成26年度実績	校長、教頭を対象とした研修会を実施しました(校長研修会、教頭研修会、一人ひとり大切に、信頼関係に立つ教育推進教頭研修会等)。						
成果実績	項目名(単位)	H24	H25	H26			
	研修会の実施回数 (回)	20	19	19			
評価の理由	学校訪問や人事評価における管理職ヒアリング等において、各学校の管理職が、学校経営・学校運営に関する理解を深め、地域社会から信頼される学校づくりを目指し、リーダーシップを発揮している様子を確認することができ、おおむね順調に進ちよくしています。校長・教頭だけでなく管理職候補者についても学校運営等に関する見識を高め、学校の組織力をより向上させていくことが今後の課題です。						
改善の方策等	今後は、各研修会の内容の改善を図るとともに、校長を助け補佐する教頭や主幹教諭を対象とした研修会の充実を図り、学校組織のマネジメント力をより強化していきます。						

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(8)教職員の資質向上			担当課	担当課評価
細 施 策	③奨励研修の充実			教育センター	B
施策の内容	教職員の資質向上を図るために、教職員自らが希望して参加できる奨励研修の充実を図ります。				
平成26年度実績	1年間で奨励研修に参加した教職員の人数は、延べ815人でした。研修内容の充実を図るため、大学教授をはじめ各分野における第一線の講師陣を迎え、より専門性の高い研修会を実施しました。				
成果実績	項目名(単位)	H24	H25	H26	
	講座数(回)	35	35	36	
	参加延べ人数(人)	890	867	815	
評価の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・教員のニーズや今日的な課題に即した内容の研修会を実施するようにし、毎年研修内容等の見直しを図ることで内容面の充実に関しておおむね順調に進ちよくしています。 ・参加者の感想等から、研修会に対する教職員の意欲や意識の向上が見られました。 				
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> ・川越市教職員のより一層の資質向上のため、研修体系の整備を図り、研修内容・研修方法の工夫改善に向けた見直しを継続的に進めます。 ・積極的な研修参加に向けた啓発を行います。 				

施策の柱	(8)教職員の資質向上			担当課	担当課評価
細 施 策	④かわごえ異業種体験研修事業の推進 (平成27年度より、かわごえミドルリーダー研修の推進として実施)			学校管理課	A
施策の内容	教員以外の民間の職業を直接体験することにより、再度教育職を見直し、多面的で柔軟な教育指導ができる教員の育成を目指し、かわごえ異業種体験研修の推進を図ります。				
平成26年度実績	平成26年度は9人の教員が異業種体験研修を行いました。どの教員も、学校での児童生徒及び保護者との対し方、組織としての学校のあり方、学級経営などを新たな視点で見つめ直し、体験から得たスキルを今後の教育活動に生かそうとする意欲を得ています。				
成果実績	項目名(単位)	H24	H25	H26	
	体験教員数(人)	9	9	9	
評価の理由	民間企業での職業体験は、教員が今までの自分の教育指導を見直し、学校及び学校教育のあり方を考え直す良い機会となっており、順調に進ちよくしてきました。平成15年度から実施しているこの事業は、全校から各2回ずつ推薦いただき、延べ113人の教職員が体験してきました。				
改善の方策等	同様の研修が川越市立小学校・中学校10年経験者研修に位置づけられていることから、次年度からは内容を改め、学校運営の推進者として活躍を期待するミドルリーダーの育成を進めてまいります。				

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(8)教職員の資質向上			担当課	担当課評価
細 施 策	⑤大学等進学指導力向上研修の推進			学校管理課	B
施策の内容	市立高等学校の教員を大学進学予備校や民間教育機関等の研修等に派遣し、学習指導力の向上を図るとともに、その成果を校内に波及させる大学等進学指導力向上研修の推進を図ります。				
平成26年度実績	平成26年度は、予備校における教員研修プログラムに、地理歴史科、数学科、英語科の3人の教員が参加しました。その成果を教科会で報告し、授業における指導法の改善、進学補習の工夫等に共通理解を図り、組織的な取組として成果を上げました。また、11月21日には授業公開を実施しました。 大学等の主な合格状況につきましても、高崎経済大学、早稲田大学、上智大学等の難関大学に合格するなど、成果を上げております。				
成果実績	項目名(単位)	H24	H25	H26	
	延べ研修参加教員数(人)	19	22	25	
	全教員数に占める割合(%)	43.2	48.9	54.3	
評価の理由	研修に参加した教員数・割合は増加し、おおむね順調に進ちよしておりますが、大学等の進学指導力に直接かかわる5教科(国・社・数・理・英)の教員が中心となって参加していることもあり、全教員数に占める割合は50%台にとどまっております。				
改善の方策等	参加教員数の増加を図るなど、今後も積極的に取り組み、教員数・割合の向上を図ります。				

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(8)教職員の資質向上				
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
	①経験・職能別研修の充実	教育センター	A	B	
	②管理職等研修の充実	学校管理課	B		
	③奨励研修の充実	教育センター	B		
	④かわごえ異業種体験研修事業の推進	学校管理課	A		
⑤大学等進学指導力向上研修の推進	学校管理課	B			
学識経験者意見等	特に総合的に学力が低下しているような部分についての研修を奨励していくようなことも、今後検討していただきたい。				

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(9)特別支援教育の充実			担当課	担当課評価
細 施 策	①就学支援委員会の充実			教育センター分室 (リベール)	B
施策の内容	小・中学校への就学予定者及び小・中学校に在籍する児童生徒のうち、教育上特別な措置又は支援を必要とする者に対して、一人ひとりのニーズに応じた教育的診断を行い、就学の適正化を図るために、専門医、学識経験者、教育関係者、行政経験者で構成する就学支援委員会の充実を推進していきます。				
平成26年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・就学相談が必要な幼児、児童生徒に対して、観察や諸検査の実施、学校・就学前施設からの聞き取り、保護者との面談等を通して、児童生徒一人ひとりに合った学びの場の判断を行い、具体的な支援方法等について保護者に情報提供を行いました。 ・平成26年度に本委員会の条例化に伴い、本委員会を判断会議として位置付け、7回実施しました。また、相談専門員による就学相談を61回実施し、適切な就学先を決定できるよう努めました。 				
成果実績	項目名(単位)	H24	H25	H26	
	就学支援委員会実施回数(回)	29	44	7	
	臨時の就学相談回数(回)	46	15	61	
	就学相談実施人数(人)	243	266	310	
評価の理由	就学相談の実施人数が年々増加していますが、児童生徒について多くの情報をもとにした適切な就学先の判断や継続的な相談が展開されており、おおむね順調に進ちよくしています。				
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> ・就学相談を進めるにあたって、児童生徒の様子を適切に把握できるよう、就学前施設、小・中学校とより一層の連携を図ります。 ・相談人数の増加に対応し、就学相談回数も必要に応じて増やし、臨機応変に対応していきます。 				

施策の柱	(9)特別支援教育の充実			担当課	担当課評価
細 施 策	②一人ひとりのニーズに応じた指導や支援の充実			教育センター分室 (リベール)	B
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育コーディネーターを充実させるとともに、自立支援サポーターの活用を図り、通常学級における支援の推進に努めます。 ・通常の学級に在籍する軽度言語・聴覚障害や発達障害等のある子どもに対して、障害の程度に応じた指導を実施し支援の充実を図ります。 ・小・中学校に設置している特別支援学級の子ども一人ひとりの障害の特性等に配慮した指導・支援の充実を努めます。 				
平成26年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・通常の学級に在籍する児童生徒の中で、学習障害(LD)・注意欠陥多動性障害(ADHD)・高機能自閉症等の発達障害があるなどの個別の支援を必要としている児童生徒数は、年々増加しており、各学校からの自立支援サポーターの申請数も増えています。 ・申請の出された学校には、各学校の実態に応じて週1～2日の範囲で、すべて自立支援サポーターを配置しました。 				
成果実績	項目名(単位)	H24	H25	H26	
	対応した児童数(人)	561	805	970	
	対応した生徒数(人)	47	69	89	
評価の理由	各学校に配置された自立支援サポーターは、該当児童生徒を別室で個別指導を行ったり、クラスの中に入って活動の助言、支援を行ったりなど、児童生徒との信頼関係を築きながら支援しており、おおむね順調に進ちよくしています。				
改善の方策等	自立支援サポーターには、特別支援教育支援員の研修会を通して、個別の支援を必要としている児童生徒の実態に応じた支援の方法を身に付けるようにします。教員に対しても、個別の支援と、全体への指導の仕方について研修する機会を設けていきます。				

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(9)特別支援教育の充実			担当課	担当課評価
細 施 策	③特別支援教育の理解・啓発の推進			教育センター分室 (リベール)	B
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・障害のある児童生徒理解のためのパンフレットを作成し、特別支援教育への理解と啓発の推進を図ります。 ・心のバリアフリーを育む交流及び共同学習等の充実を図り、ノーマライゼーションの理念に基づく教育を推進します。 				
平成26年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・「就学相談セミナー」「発達障害セミナー」に参加した保護者が、就学相談や教育相談を希望し、相談することで、児童生徒のよりよい成長のための支援の在り方を共に考えることができました。 ・特別支援学級の授業について関心のある保護者は多く、一人で数校の公開授業を見に行く方がいるなど、毎年約300人が申し込んでいます。 				
成果実績	項目名(単位)	H24	H25	H26	
	「就学相談セミナー」 「発達障害セミナー」 参加者(人)	16	57	47	
	特別支援学級授業 公開参観者(人)	302	274	299	
評価の理由	保護者向けセミナーや特別支援学級の授業公開日を設けることで、市民に特別支援教育を具体的に知り、理解してもらうことができました。また、授業公開を行うことで、教員が積極的に研修を重ね、指導の工夫を図る等、資質の向上につながり、おおむね順調に進ちよくしています。				
改善の方策等	障害のある児童生徒の保護者だけでなく、一般市民にも理解を得られるような広報活動を積極的に行います。また、セミナーの内容について、参加する方のニーズに合わせた内容を工夫し、特別支援教育の理解を図ります。				

施策の柱	(9)特別支援教育の充実			担当課	担当課評価		
細 施 策	④市立特別支援学校のセンター的機能の充実			教育センター分室 (リベール)	B		
施策の内容	市立特別支援学校が、保護者に対する相談活動や小・中学校等へのセンター的な役割が担えるよう支援体制の整備を推進します。						
平成26年度実績	市立特別支援学校のセンター的機能に基づき、33件の相談、研修等に対応しました。 (内訳) <ul style="list-style-type: none"> ・保護者との面接相談5件 ・特別な配慮が必要な児童生徒についての小中学校への指導援助15件 ・小中学校における配慮が必要な児童生徒への支援に関する研修会の実施2件 ・その他(介護等の体験事前指導、異校種体験教員受け入れ、巡回支援等)11件 						
成果実績	項目名(単位)	H24	H25	H26			
	特別支援学校のセンター的機能による 対応数(件)	保護者	3	保護者	6	保護者	5
		学校	17	学校	8	学校	15
		研修	27	研修	18	研修	2
		その他	2	その他	4	その他	11
合計		49	合計	36	合計	33	
評価の理由	地域の特別支援教育の推進を支援するセンター的機能を発揮し、特別な配慮が必要な児童生徒についての小中学校への指導援助や巡回支援など、おおむね順調に進ちよくしています。						
改善の方策等	センター的機能の充実をめざした学校としての組織的な支援の実施に向け、外部との連携作り、教職員の資質の向上、校内体制の整備に努めます。						

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進

【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱		(9) 特別支援教育の充実			
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
施策評価	①就学支援委員会の充実	教育センター分室(リベール)	B	B	B
	②一人ひとりのニーズに応じた指導や支援の充実	教育センター分室(リベール)	B		
	③特別支援教育の理解・啓発の推進	教育センター分室(リベール)	B		
	④市立特別支援学校のセンター的機能の充実	教育センター分室(リベール)	B		
学識経験者等意見	最近は発達障害を抱えている子どもが増えてきているので、保護者と信頼関係を作り、児童に対するケア等について充実を図っていただきたい。				

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(10)英語教育・外国語(英語)活動及び国際理解教育の推進	担当課	担当課評価	
細 施策	①英語指導助手(AET)の配置事業の充実	教育センター	B	
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・国際化の進展に対応し、広い視野と国際感覚を持った児童生徒を育成するため、小・中・市立高等学校及び特別支援学校に配置されている英語指導助手の充実・推進を図ります。 ・小学校での学級担任教員との英語活動や中・高等学校での英語担当教員との共同授業において、英語指導助手をより効果的に活用できる配置を進めていきます。 			
平成26年度実績	現地採用4人、KET2人、派遣契約16人の英語指導助手(AET)を配置しました。 〈訪問実績〉 英語指導助手(AET)22人 小学校 990日 中学校 1,817日 市立川越高等学校 125日 合計2,932日			
成果実績	項目名(単位)	H24	H25	H26
	配置人数(人)	21	21	22
	1校あたりの年間訪問日数(日)	小22.0 中92.3	小27.3 中88.2	小30.93中82.59
評価の理由	派遣業者の選定方法がプロポーザル方式であることにより、英語指導助手の質の向上を図ることができました。また、現地採用を1名増加したことにより、各学校への計画的な配置を進めることができ、おおむね順調に進捗しています。			
改善の方策等	児童生徒の英語力の向上、国際理解協力の推進には、英語指導助手(AET)の人数を段階的に増やしていくとともに、指導力等の質の向上が不可欠です。今後も学校訪問を通して英語指導助手の質の向上を図ります。			

施策の柱	(10)英語教育・外国語(英語)活動及び国際理解教育の推進	担当課	担当課評価	
細 施策	②小学校外国語活動の推進	教育センター	B	
施策の内容	小学校5・6年生での外国語活動の時間に、英語ノートや川越市小学校外国語活動研究委員会が作成した資料を活用し、担任教師と英語指導助手が協力して、英語に親しむことのできる授業の充実・推進を図ります。			
平成26年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校外国語活動において、英語を通じて言語や文化についての体験的な理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図りました。英語の音声や基本的な表現に慣れ親しませる活動に取り組みました。 ・川越市小学校外国語活動研究委員会において担任が授業ですぐに活用できるよう、文部科学省著作物「Hi friends!」の指導案例を継続して作成し、完成しました。効果的な授業が行えるように市内各学校に配布し、活用を図りました。 ・小学校外国語活動指導者研修会を実施し、教職員の資質向上に努めました。 			
成果実績	項目名(単位)	H24	H25	H26
	AETの共同授業による1日平均授業時数(時間)	4.44	4.40	4.63
	小学校第5・6学年1学級当たりの英語指導助手(AET)の年間訪問回数(日)	4.09	4.85	5.56
評価の理由	AETの1日の平均授業数は前年度とほぼ同じであり、積極的に活用が図られている現状にあります。小学校外国語活動を推進するため、訪問回数を増加させる計画を作成し、より積極的な活用を図りました。おおむね順調に進捗しています。			
改善の方策等	外国語活動のより一層の充実を図るため、AETの積極的な活用を図るとともに、教員の更なる指導力向上を図る研修の充実に努めます。			

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(10)英語教育・外国語(英語)活動及び国際理解教育の推進			担当課	担当課評価
細 施 策	③中学校英語教育の充実			教育センター	B
施策の内容	英語指導助手(AET)の効果的な活用、教員の指導力の向上を図り、「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」の4技能のバランスを取りながら、体験的・実践的な英語教育の充実を推進していきます。				
平成26年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校では英語担当教諭と英語指導助手(AET)との共同授業を通して、言語の使用場面や言語の働きに配慮したコミュニケーション活動を充実させ、コミュニケーション能力の基礎・基本の定着が図れるよう、生徒が主体的に取り組む授業づくりを推進しました。 ・英語科指導力向上研修会等を実施し、具体的な指導方法や模擬授業づくりを通してより実践的な指導を学ぶことから教員の指導力向上を図りました。 				
成果実績	項目名(単位)	H24	H25	H26	
	AETの共同授業による1日平均授業時数(時間)	3.62	3.78	3.77	
評価の理由	1日あたりの英語指導助手(AET)の平均授業時数は前年度と同様で、各学校において共同授業が円滑に進められており、おおむね順調に進ちよくしています。				
改善の方策等	学習指導要領の目標であるコミュニケーション能力の基礎を養うため、英語指導助手の積極的な活用を各学校に促すとともに教員の指導力向上を図る研修の充実にも今後努めていきます。				

施策の柱	(10)英語教育・外国語(英語)活動及び国際理解教育の推進			担当課	担当課評価
細 施 策	④国際理解教育の推進			教育センター	B
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・外国籍の児童生徒のうち、特に日本語指導が必要とされる児童生徒に対して、日本語指導ボランティアの派遣を推進していきます。(再掲) ・国際理解教育の充実・推進を図ります。 				
平成26年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語指導を必要とする外国籍の児童生徒に611回の日本語指導を実施しました。 ・市立小・中・高・特別支援学校を対象とした国際理解教育研修会を実施しました。 ・市立小学校を2つのブロックに分け、ブロックごとに1校が外国語活動の授業公開を行い、研究協議を行いました。 				
成果実績	項目名(単位)	H24	H25	H26	
	国際理解教育研修会実施数(回)	3	3	3	
	参加延べ人数(人)	109	110	105	
評価の理由	全市立学校の教職員が国際理解教育に関する研修会に参加し、指導力の向上を図ることができたため、おおむね順調に進ちよくしています。				
改善の方策等	国際理解教育推進のために外国語活動だけでなく、さまざまな面で国際理解教育が推進される研修会を実施していきます。				

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進

【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱		(10) 英語教育・外国語（英語）活動及び国際理解教育の推進			
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
施策評価	①英語指導助手(AET)の配置事業の充実	教育センター	B	B	B
	②小学校外国語活動の推進	教育センター	B		
	③中学校英語教育の充実	教育センター	B		
	④国際理解教育の推進	教育センター	B		
学識経験者等 学意 見	<ul style="list-style-type: none"> ・英語教育については、「聞く」「話す」という部分が遅れていると思われるため、学校の中で英語に触れる機会が多くなるようにしていただきたい。 ・ネイティブスピーカーのAETの配置を増やしていただきたい。 				B

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(11)情報教育の推進						担当課	担当課評価
細 施策	①ICT教育の推進						教育センター	A
施策の内容	児童生徒がコンピュータやインターネット等のICTを活用し、情報の収集・活用・発信という主体的な学習ができるよう推進します。							
平成26年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校・中学校の授業におけるICT(情報通信技術)活用回数は、平成25年度は1学級あたり小学校で43.2回、中学校で51.8回だったのに対し、平成26年度は小学校で51.1回、中学校で75.9回と大きく増加しています。 ・デジタル教科書の活用回数は、平成25年度の1校あたり267.2回に対して平成26年度は330.3回となり、こちらも大幅に増加しています。 							
指標及び説明	【指標】 授業におけるICT(情報通信技術)活用授業回数			【説明】 市内全小学校のうち1学級当たり1年間にICT(情報通信技術)を活用した授業の実施回数				
指標の推移	単位	現在値(H21)	実績値				目標値(H27)	
			H22	H23	H24	H25	H26	
	回	28	32.2	36.8	34.1	43.2	51.1	35
評価の理由	市立小・中学校のICT活用回数だけでなく、デジタル教科書の活用回数も大きく増加しており、目標値を上回っていることから、順調に進ちよくしています。							
改善の方策等	教職員一人ひとりの能力や適性にあった研修会を計画的に実施し、ICT活用の実践例や効果を理解することにより、児童生徒への授業での一層の活用を図ります。							

施策の柱	(11)情報教育の推進						担当課	担当課評価
細 施策	②情報モラル教育の推進						教育センター	A
施策の内容	児童生徒の情報の安全管理や情報モラル等の育成を一層推進するために、情報教育推進委員会、管理職や情報化推進リーダー等を対象にした情報モラル教育の研修を体系的に推進します。							
平成26年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・情報モラル教育に関しては、小学校では主に総合的な学習の時間で、中学校では、技術家庭科(情報分野)の年間指導計画に全校位置付けています。 ・平成26年度、小学校・中学校の情報モラルに関する授業の実施回数は1校あたり22.5回であり、現代の情報化における課題に対応した取組になっています。 							
指標及び説明	【指標】 情報モラルに関する指導ができる教員の割合(文部科学省及び川越市独自調査)			【説明】 市内全中学校の教員のうち情報モラルに関する指導ができる教員の割合				
指標の推移	単位	現在値(H21)	実績値				目標値(H27)	
			H22	H23	H24	H25	H26	
	%/校	66	75	76	77	80	90	80
評価の理由	実績値は目標値を上回っており、情報モラルに関する指導の授業の実施も各校で円滑に進められているため、順調に進ちよくしています。							
改善の方策等	児童生徒への指導や家庭への情報の提供と周知が図れるよう、経験者研修に意図的に組み込みます。また、教育センターで行う情報モラル教育に関する研修会を通して、教職員の情報モラルに関する知識と指導力の一層の向上を図ります。							

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(11)情報教育の推進			担当課	担当課評価
細 施 策	③コンピュータ施設・設備の充実と活用			教育センター	B
施策の内容	小・中学校に設置されている教育用コンピュータの活用を図るため電子黒板やプロジェクター等の周辺機器を更に充実し、コンピュータ施設・設備の充実と活用を図ります。				
平成26年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・情報機器の基本的な操作を身に付けるため、教育センターにおいて、デジタル教科書操作や電子黒板操作に関する研修会を実施しました。 ・各教科等の研修会の中でも、デジタル教科書を積極的に活用し、授業の中での活用方法を研修しました。 ・これらの操作に関する研修会の参加者は、平成25年度の142人から平成26年度の184人に増加しました。 				
成果実績	項目名(単位)	H24	H25	H26	
	校務にICTを活用できる小学校教員の割合(%)	96.0	97.5	97.4	
	校務にICTを活用できる中学校教員の割合(%)	95.5	95.7	95.9	
評価の理由	実績値は昨年度とほぼ横ばいですが、ICT活用に積極的に取り組む教職員が増加しており、おおむね順調に進ちよくしています。				
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> ・効率的に校務にICTが活用できる教職員がさらに増えるように、研修会を計画し、積極的な参加を促します。 ・教育の情報化を一層推進するため、校内LANの導入を計画・推進していきます。 				

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(11)情報教育の推進				
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
	①ICT教育の推進	教育センター	A	A	
	②情報モラル教育の推進	教育センター	A		
③コンピュータ施設・設備の充実と活用	教育センター	B			
学識経験者意見等	コンピュータやインターネットについては、悪意のある使い方がいろいろなところがあるので、モラル教育の充実を図っていただきたい。				

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(12)読書活動の推進			担当課	担当課評価
細 施策	①読書活動啓発推進事業			教育指導課	A
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> 小学生は「小江戸読書マラソン」の取組、中学生は「小江戸中学生読書手帳」の活用を通して、児童生徒の読書活動を推進します。 家庭には読書活動啓発リーフレットを保護者に配布し、家庭における読書活動の啓発に努めます。 				
平成26年度実績	<ul style="list-style-type: none"> 小学生には「小江戸読書マラソン」を配布し、意欲的な読書活動が進められるようにしました。 中学生には「小江戸中学生読書手帳」を配布し、生徒の興味・関心を踏まえ、取り上げる本を見直すなど内容を改善しました。 家庭用に保護者に対して読書活動啓発リーフレットを作成し、配布しました。 				
成果実績	項目名(単位)	H24	H25	H26	
	小学校における年間平均読書冊数(冊)	48.9	49.3	54.9	
	中学生読書手帳に記入された平均読書数(冊)	10.5	11.3	12.1	
評価の理由	本事業の継続的な実施により、「小江戸読書マラソン」「小江戸中学生読書手帳」等の活用について定着が図られ、児童生徒の読書活動の推進は順調に進ちよくしています。				
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> 蔵書の質と量を含めた学校図書館の充実を図ります。 「小江戸読書マラソン」や「小江戸中学生読書手帳」について、研修会等を通じてより積極的な活用を促すなど、読書活動の推進に取り組みます。 				

施策の柱	(12)読書活動の推進			担当課	担当課評価	
細 施策	②図書館司書による読書活動の推進			中央図書館	A	
施策の内容	図書や図書館への興味・関心を持ってもらうため、図書館司書の学校訪問等を通じ、読書活動の推進に努めます。					
平成26年度実績	全市立小学校3年生の各学級を訪問・招待し、本の紹介を行いました。					
指標及び説明	【指標】 図書館司書による学校訪問等の回数(校数)			【説明】 市立小学校3年生の各学級を対象に本の紹介などを行う		
	指標の推移	単位	現在値(H21)	実績値		
H22				H23	H24	H25
回		20	32	32	32	32
校	20	32	32	32	32	32
評価の理由	図書館司書などによる全市立小学校訪問や学級招待を行ったことで、児童の読書活動が推進されており、順調に進ちよくしています。					
改善の方策等	引き続き全市立小学校3年生の各学級を訪問・招待し、本の紹介を行います。					

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(12)読書活動の推進						担当課	担当課評価
細 施 策	③図書館から学校への団体貸出の推進						中央図書館	A
施策の内容	児童生徒たちの読書要求に応えるため、市立図書館から学校への団体貸出を推進します。							
平成26年度実績	児童・生徒たちへの「テーマ」に沿った図書を市内小学校22校に延べ103回、7,242冊、中学校7校に延べ11回、591冊貸出しました。							
指標及び説明	【指標】 学校への団体貸出数			【説明】 市内小中高校の各学級を対象に100冊を上限に1ヶ月間貸出する冊数				
指標の推移	単位	現在値(H21)	実績値				目標値(H27)	
	冊	5,725	H22	H23	H24	H25	H26	8,000
評価の理由	小学校への貸出冊数は7,242冊で平成25年度(5,998冊)と比べて約20%増でした。中学校への貸出冊数は591冊で平成25年度(442冊)と比べて約34%増でした。このため小中学校の合計としては平成25年度と比べて約22%増となり、順調に進ちよくしています。							
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校の先生たちに事業のPRをします。 ・平成27年度から、委託業者による配送サービスを始めます。 							

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(12)読書活動の推進					
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価	
	①読書活動啓発推進事業	教育指導課	細施策	施策の柱		
	②図書館司書による読書活動の推進	中央図書館	A	A		
	③図書館から学校への団体貸出の推進	中央図書館	A			
学識経験者等 意見	<ul style="list-style-type: none"> ・小江戸読書マラソンは、たくさんの文字に親しんでいくことを手助けしているという意味で、非常に良い取組だと思う。また、年齢層に応じた推薦図書を設けながら、読書マラソンを噛み合わせていくことなどについても検討していただきたい。 ・図書館から学校への団体貸出については、中学校への貸出数が少ないように思われるため、中学生の読書離れを防ぐ意味でも、貸し出しの推進について検討していただきたい。 				A	

【方向性】 1 生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(13)健康の保持増進と安全・体力向上の推進			担当課	担当課評価
細 施 策	①学校保健活動の推進			教育指導課	A
施策の内容	学校・家庭・地域との連携を図りながら、健康診断や学校環境衛生活動等の保健管理の徹底に努めるとともに、歯・口の健康づくりや薬物乱用防止教育、性に関する教育等の保健教育や学校保健活動を推進します。				
平成26年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・学校における定期健康診断等を実施しました。 ・学校環境衛生検査として飲料水検査、プール水検査、学校環境衛生検査、ホルムアルデヒド及び揮発性物質検査、砂場の細菌検査、ダニ・アレルゲン検査を実施しました。問題があった場合は、指導により改善を図りました。 ・歯・口の健康づくりや性に関する教育等は、学習指導要領に基づき適切に実施しました。 ・薬物乱用防止教育研修会を開催するとともに、全校で薬物乱用防止教室を実施し、健全な心身の育成に向けた取組を行いました。 ・養護教諭研修会で食物アレルギー・アナフィラキシーに係る各学校の取組事例を発表するなど、情報交換を進め、食物アレルギー・アナフィラキシー対応の定着を図りました。 				
成果実績	項目名(単位)	H24	H25	H26	
	薬物乱用防止教室の実施状況	全校実施 (小32 中22 高1 特1)	全校実施 (小32 中22 高1 特1)	全校実施 (小32 中22 高1 特1)	
評価の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・予定されていたすべての検査を適切に実施し、問題のあった場合は改善を指導し、再検査で状況を確認しています。 ・全校で児童生徒の発達段階に応じた薬物乱用防止の指導を実施するなど順調に進ちよくしています。 				
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季における教室内の室温調査等の環境衛生検査を実施し、衛生的で安全な学習環境の把握に努めます。 ・薬物乱用防止教育を更に充実させ、児童生徒の健全な心身の育成に取り組みます。 ・食物アレルギー・アナフィラキシーに対して適切な対応がとれるよう更なる定着を図ります。 				

施策の柱	(13)健康の保持増進と安全・体力向上の推進			担当課	担当課評価
細 施 策	②安全・安心の推進			教育指導課	B
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒、地域の実態に応じた安全教育・安全指導を推進します。 ・登下校等における児童生徒の安全確保のための通学路の安全点検、スクールガード・リーダーの配置、地域ボランティアによる防犯パトロール等、地域及び関係機関等との連携を図り、安全・安心の取組を推進します。 				
平成26年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールガード・リーダー養成講習会を実施しました。 ・各学校に通学路点検の指示をし、改善要望をとりまとめ、防犯・交通安全課に提出しました。 ・青色回転灯パトロールカーによる市内の巡回を42回実施しました。 				
成果実績	項目名(単位)	H24	H25	H26	
	スクールガード・リーダー養成講習会参加者数(人)	114	78	91	
評価の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・全小学校にスクールガード・リーダーを委嘱しました。 ・スクールガード・リーダー養成講習会の実施時期と内容を改善し、より多くの方が参加できるようにするとともに、効果的な講習ができるようになりました。 ・関係課との連携により通学路の整備が進められ、おおむね順調に進ちよくしています。 				
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の交通事故の原因は、歩行時の飛び出しや自転車による運転の問題が多く、重大な事故につながらないよう、交通安全の指導を継続的に実施します。 ・学校からの要望書を受け、関係課と連携することで、危険箇所の把握及び改善をより速やかに進めてまいります。 				

【方向性】 I ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(13)健康の保持増進と安全・体力向上の推進						担当課	担当課評価
細 施 策	③体力向上の推進						教育指導課	B
施策の内容	「川越市児童生徒体力向上推進委員会」の取組や、近隣の大学との連携による「トップアスリートふれあい事業」の実施を通して、児童生徒の体力向上の推進に取り組みます。							
平成26年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・「川越市児童生徒体力向上推進委員会」を開催し、体力向上広報紙「じゃんぷ」「川越市小・中学校新体力テスト一覧」を発行しました。 ・「トップアスリートふれあい事業」により、東洋大学と連携し、駅伝部のコーチ・学生を市立小学校5校に派遣し、1,932人の児童が参加しました。 ・市立全小中学校で新体力テストを実施し、結果をまとめ、体力向上の推進を図りました。 							
指標及び説明	【指標】 新体力テスト総合評価(5段階)で3段階以上の割合			【説明】 市内全中学校生徒の新体力テスト総合評価基準表の上位3段階生徒の割合				
指標の推移	単位	現在値 (H21)	実 績 値				目標値 (H27)	
			H22	H23	H24	H25		H26
	%	82.6	83.2	83.7	85	84.6	84.9	90.0
評価の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・「トップアスリートふれあい事業」で、第一線で活躍する大学生の走りを体感することにより、児童の走る意欲が高められました。 ・市内全中学校生徒の新体力テスト総合評価規準表の上位3段階生徒の割合は、平成21年度を基準とすると、その後増加傾向にあり、おおむね順調に進ちよしています。 							
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校で実施した新体力テストの分析により、「握力」「立ち幅とび」「ボール投げ」を体力重点課題とし、全体的な体力向上に向け、学校生活や授業の改善に取り組みます。 ・川越市児童生徒体力向上推進委員会により、小中連携した授業研究を通して、効果的な指導方法の研究を推進します。 							

【方向性】 I ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(13)健康の保持増進と安全・体力向上の推進					
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価	
			細施策	施策の柱		
	①学校保健活動の推進	教育指導課	A	B		
	②安全・安心の推進	教育指導課	B			
③体力向上の推進	教育指導課	B				
学識経験者等 意見	トップアスリートふれあい事業については、一流の人たちと触れ合うことで、運動する楽しさや、がんばりたいという意欲が非常に高まってくるので、各学校で3年に1度は実施できるように推進していただきたい。				B	

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(14)学校の評価充実			担当課	担当課評価
細 施策	①人事評価の充実			学校管理課	B
施策の内容	教職員人事評価システムを有効に活用し、教職員の資質・能力の向上を図るとともに、校長を中心とする学校組織の活性化や人事評価の充実を目指します。				
平成26年度実績	各学校の目標に応じ、年度当初に個々が目標と方策を立てました。面談を重ね、進行、状況を確認し、達成状況や職務遂行の過程で発揮された能力、執務姿勢等を総合的に評価していくことで、教職員の資質・能力の向上が図れました。				
成果実績	項目名(単位)	H24	H25	H26	
	校長に対する年間面談回数(回)	168	167	168	
	教職員に対する年間面談回数(回)	4,896	4,584	4,671	
評価の理由	「埼玉県市町村立学校職員の人事評価に関する規則」及び「埼玉県市町村立学校職員の人事評価実施要領」に基づき、各学校で設定した目指す学校像と重点目標を踏まえて目標と方策を策定しました。目標の達成状況に基づいた自己評価、評価者評価を通し、教職員の資質・能力の向上に活用され、おおむね順調に進ちよくしています。				
改善の方策等	各学校が設定している目指す学校像、重点目標が実現されるよう、年度当初に個々の目標・方策・困難度を設定できるよう指導し、学校組織の活性化に努めます。				

施策の柱	(14)学校の評価充実			担当課	担当課評価
細 施策	②学校評価の充実			学校管理課	B
施策の内容	PDCAサイクルによる学校の自己評価、外部アンケート等の実施、学校関係者評価などを通して、教育活動等の成果を検証し、学校運営の改善と充実を目指します。				
平成26年度実績	各学校が自己評価のために、学校関係評価委員による授業参観、学校観察等を行うとともに、教員による自己評価・外部アンケートを実施しました。自己評価により、学校の課題や改善点を整理し学校運営を改善することができました。				
成果実績	項目名(単位)	H24	H25	H26	
	「自己評価」におけるA評価の割合(%)	31.1	32.9	34.9	
	「学校関係者評価」におけるA評価の割合(%)	51.6	55	53	
評価の理由	各学校が、学校関係者に学校自己評価の評価理由及び改善策を提示し、年度末に学校関係者評価を実施し意見を伺っており、PDCAサイクルによる学校運営がおおむね順調に進ちよくしています。				
改善の方策等	学校評価評価項目を、学校の実態に合わせたものにするために、関係者との連携を更に進め、より良い学校評価を実現できるよう努めていきます。				

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進

【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱		(14) 学校の評価充実			
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
施策評価	①人事評価の充実	学校管理課	B	B	B
	②学校評価の充実	学校管理課	B		
学識経験者等 学意 見	特になし				

【方向性】 1 ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 2 安全・安心で質の高い教育を支える教育環境の整備・充実

施策の柱	(1)学校施設の整備・充実					担当課	担当課評価
細 施 策	①学校施設の耐震化の推進					教育財務課	A
施策の内容	学校施設は、児童生徒が1日の大半を過ごす学習・生活の場であるとともに、災害発生時には地域住民の避難場所となるなど重要な役割を担っていることから、学校施設の耐震化に向け耐震補強工事を計画的に取り組みます。						
平成26年度実績	平成24年度に全学校施設の耐震化が完了しました。						
指標及び説明	【指標】 学校施設の耐震化の推進			【説明】 市内のすべての公立小中学校の耐震化の割合			
指標の推移	単位	現在値 (H21)	実 績 値				目標値 (H27)
			H22	H23	H24	H25	H26
	%	63	76	93	100	100	100
評価の理由	平成24年度を完了年度とした「川越市小中学校耐震化推進計画」に基づき、全学校施設の耐震化が完了しました。						
改善の方策等	平成24年度に全学校施設の耐震化が完了しました。						

施策の柱	(1)学校施設の整備・充実					担当課	担当課評価
細 施 策	②大規模改造工事等学校施設の整備の推進					教育財務課	A
施策の内容	学校施設設備の老朽化した部分等の緊急性や必要性などを検討し、建物の耐久性の向上を図るため大規模改造工事等計画的な施設・設備の整備を進めていきます。						
平成26年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・大規模改造工事を実施(小学校2校、中学校2校) ・大規模改造工事設計業務委託を実施(中学校1校) ・トイレ改修工事を実施(小学校5校、中学校2校) 						
指標及び説明	【指標】 大規模改造工事の推進			【説明】 市内のすべての公立小中学校の大規模改造工事の実施割合			
指標の推移	単位	現在値 (H21)	実 績 値				目標値 (H27)
			H22	H23	H24	H25	H26
	%	44	52	54	55	57	59
評価の理由	平成23年度に策定した「川越市小中学校大規模改造計画」に基づき、大規模改造工事及び大規模改造工事設計業務委託を実施しましたので、順調に進ちよくしています。						
改善の方策等	学校施設の耐久性の向上、施設の機能改善、教育環境の改善を図るため、「川越市小中学校大規模改造計画」に基づき、大規模改造工事を進めてまいります。						

【方向性】 1 ー生きる力を育む学校教育の推進

【施策】 2 安全・安心で質の高い教育を支える教育環境の整備・充実

施策の柱		(1) 学校施設の整備・充実			
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
施策評価	①学校施設の耐震化の推進	教育財務課	A	A	A
	②大規模改造工事等学校施設の整備の推進	教育財務課	A		
学識経験者等 学意	学校の整備については、校内LAN等の整備も検討していただきたい。				

- 【方向性】 1 ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 2 安全・安心で質の高い教育を支える教育環境の整備・充実

施策の柱	(2)小・中学校の適正配置と通学区域の弾力化			担当課	担当課評価
細 施 策	①小・中学校の通学区域・規模等の検討			学校管理課	B
施策の内容	今後の川越市立小中学校の在り方検討委員会において、「通学区域に関すること」、「余裕教室の活用に関すること」、「今後の望ましい学校数(学校の統廃合や存続等)に関すること」、「その他」の視点で検討し、将来にわたり適正な小中学校の通学区域・規模等を調査研究していきます。				
平成26年度実績	市立小・中学校の今後の児童生徒数(学級数)の推移等に鑑み、余裕教室の活用や適正規模等の基本方針等に係る検討を行い、これらを踏まえるとともに、国の考え方等も考慮し、今後の検討資料として「川越市立小・中学校適正規模・適正配置基本方針の策定に向けて」と題して取りまとめました。				
成果実績	項目名(単位)	H24	H25	H26	
	小中学校の在り方検討委員会等開催回数(回)	6	3	3	
	検討内容	指定校変更、区域外就学許可基準の公表、施設整備	児童数の増加が見込まれる学校への対応策について	市立小・中学校適正規模・適正配置基本方針	
評価の理由	本市の義務教育に係る環境の整備のため、市立小・中学校の適正規模・適正配置に係る基本的な考え方(基準)の策定を進める必要があることから、「川越市立小・中学校適正規模・適正配置基本方針の策定に向けて」と題した今後の検討資料を取りまとめました。おおむね順調に進ちよくしています。				
改善の方策等	市長部局の関係課の協力を求め、平成27年3月に取りまとめた「川越市立小・中学校適正規模・適正配置基本方針の策定に向けて」や、同年1月に文部科学省から発出された「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」等を基に、適正規模・適正配置に係る考え方(基準)の策定について検討するとともに、具体的な地区を取り上げ今後の状況を精査し、対応策を検討してまいります。				

- 【方向性】 1 ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 2 安全・安心で質の高い教育を支える教育環境の整備・充実

施策の柱	(2)小・中学校の適正配置と通学区域の弾力化				
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
	①小・中学校の通学区域・規模等の検討	学校管理課	B	B	
学識経験者意見等	学校に通う校区外の子どもの割合が高い学校もあるため、早めに調査していただき、通学区域の見直し等を検討していただきたい。				B

- 【方向性】 1 ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 2 安全・安心で質の高い教育を支える教育環境の整備・充実

施策の柱	(3)学校図書館の充実			担当課	担当課評価
細 施 策	①司書教諭・図書整理員の配置			教育指導課	A
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・司書教諭・図書整理員の配置により、学校図書館経営の充実を図り、学校図書館を活用した学習指導を一層推進します。 ・司書教諭や図書整理員の研修等を通して読書好きの児童生徒を増やし、子どもの読書活動を活発にするために、司書教諭や図書整理員の研修等を通して、創意工夫をこらした学校図書館の中で、子どもの読書活動が充実するように努めます。 				
平成26年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・司書教諭、図書整理員とも全校に配置しました。(図書整理員は30人を複数校配置で対応) ・子ども読書活動推進研修会を実施し、司書教諭を中心に児童生徒の読書活動推進のための研修を実施しました。 ・図書整理員を対象に、魅力ある学校図書館づくりを進めるための研修会を年4回実施し、学校図書館の充実を図りました。 				
成果実績	項目名(単位)	H24	H25	H26	
	学校図書館の貸出数(小学校)(冊)	417,968	431,081	459,709	
	学校図書館の貸出数(中学校)(冊)	42,407	45,873	48,842	
評価の理由	各種研修会を通して司書教諭・図書整理員の職務充実が図られたことで、学校図書館の整備と活用が促進されるとともに、本の貸出冊数も増加し、順調に進ちよくしています。				
改善の方策等	「全校一斉朝読書」など読書活動の時間を設けたり、教科の指導等で学校図書館の利用を促進し、児童・生徒が本に触れる機会を増やします。				

施策の柱	(3)学校図書館の充実			担当課	担当課評価
細 施 策	②蔵書の充実			教育指導課	B
施策の内容	学校教育の中で、学校図書館の活用の充実が図れるよう、子どもの要望に応じた図書や豊かな心を育てるための図書を計画的に購入し、蔵書の充実に努めます。				
平成26年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校に適切に予算を配当し、計画的に図書を購入しました。 ・調べ学習や発展的な学習に活用できる本や児童生徒が興味・関心を寄せている本を計画的に購入し、学校図書館の環境整備を図りました。 				
成果実績	項目名(単位)	H24	H25	H26	
	図書標準の達成率(小学校)(%)	78.0	80.6	83.3	
	図書標準の達成率(中学校)(%)	90.8	97.0	100.6	
評価の理由	図書の計画的な購入により、図書標準の達成率は向上しており、おおむね順調に進ちよくしています。				
改善の方策等	計画的な図書の購入と適切な蔵書の入替えにより、蔵書の量的確保とともに質的向上が図れるよう整備を進めます。				

【方向性】 1 ー生きる力を育む学校教育の推進

【施策】 2 安全・安心で質の高い教育を支える教育環境の整備・充実

施策の柱		(3) 学校図書館の充実			
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
施策評価	①司書教諭・図書整理員の配置	教育指導課	A	A	A
	②蔵書の充実	教育指導課	B		
学識経験者等 学意 見	特になし				

【方向性】 1 ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 2 安全・安心で質の高い教育を支える教育環境の整備・充実

施策の柱	(4)学校給食の充実			担当課	担当課評価
細 施策	①食育の推進			教育指導課	B
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒が生涯健康で充実した生活を送るために、学校給食を通じた食に関する指導に加え、教科等と連携した食に関する指導の推進に努めます。 ・効果的な食に関する指導を推進するため、栄養教諭制度等の指導体制の整備を推進するとともに、学校、家庭、地域への啓発、情報提供など、連携した取組を目指します。 				
平成26年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・学校、家庭において、食に関する指導、意義、役割等について理解を深め、家庭での実践に生かすために「朝食欠食ゼロキャンペーン」を全小中学校で実施しました。 ・参加対象を栄養教諭・学校栄養教員に広げ、「食に関する指導法研修会」を実施しました。 ・食生活と体力の相関関係の調査結果を示した広報紙「じゃんぷ」を全家庭に配布し、食の大切さを啓発しました。 				
成果実績	項目名(単位)	H24	H25	H26	
	必ず朝食をとる割合(小5)(%)	89.5	90.3	88.8	
	必ず朝食をとる割合(中2)(%)	83.3	85.5	80.6	
評価の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・給食の時間や家庭科等の授業で、バランスの良い食事や地産地消の考え方を踏まえた学習が推進されています。 ・各学校において食育における年間指導計画を踏まえた指導を行っており、おおむね順調に進ちよくしています。 				
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> ・埼玉県の「早寝、早起き、朝ご飯」の運動を推進します。 ・食育についての研修を引き続き計画的に実施します。 				

施策の柱	(4)学校給食の充実			担当課	担当課評価			
細 施策	②給食内容の充実			学校給食課	C			
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・安全・安心でおいしい給食を提供するため、栄養的にバランスの取れた給食を提供し、児童生徒の健康の増進や体力の向上を目指します。 ・学校給食で使用する食材の安全確保に努めるとともに、地場産物の使用拡大に努めます。 							
平成26年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・学校給食における摂取基準に基づいた学校給食を小学校・中学校で187回実施しました。 ・農産物等の産地証明、残留農薬証明等を求め、給食材料の安全性を確保しました。 ・地産地消の考えから主食米については、川越産米約233t、野菜については33t(17品目)使用しました。 ・食材について、毎日3品目程度と給食1食分の放射性物質検査を実施しました。 							
指標及び説明	【指標】 学校給食における地場産物の使用拡大			【説明】 学校給食への川越産野菜使用割合				
	単位	現在値(H21)	実績値				目標値(H27)	
指標の推移	%	19.3	H22 8.8	H23 19.1	H24 19.6	H25 21.4	H26 8.1	20.0
評価の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・平成26年度は、消費税の増税に加え、食材が値上がりし、食材の購入について大変厳しい運営となりました。そのため、地場産野菜の使用について、値段が安い場合は他の国産野菜を一部使用せざるを得ない状況となり前年度を大きく下回るものとなりました。 ・食材の安全性確保のため、引き続き放射性物質の検査を実施していきます。 							
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も地場産農産物の利用を増やしていくため、地場産物を生かした献立や、収穫期に合わせた献立等、地場産物を積極的に取り入れていきます。 ・食材の安全性確保のため、引き続き放射性物質の検査を実施していきます。 							

- 【方向性】 1 ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 2 安全・安心で質の高い教育を支える教育環境の整備・充実

施策の柱	(4)学校給食の充実			担当課	担当課評価
細 施 策	③学校給食施設の整備			学校給食課	B
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・藤間学校給食センターと吉田学校給食センターは老朽化が進んでいるため、施設の更新を計画的に推進していきます。 ・学校給食の安全性の向上を図るため、調理場のドライ化を推進します。 				
平成26年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・(仮称)川越市新学校給食センター整備運営事業について実施方針を定め、特定事業の選定によりPFI方式による実施を確定し、事業者選定のための入札公告を行いました。 ・各学校給食センターの維持管理のため、優先度をつけて改修工事等を実施しました。 ・調理場のドライ化を推進し、学校給食の安全性の向上を図りました。 				
成果実績	項目名(単位)	H24	H25	H26	
	改修工事	調理室空調設備改修工事(今成)	男子休憩室冷暖房設備改修工事(今成)、焼物機等改修工事(今成)	事務室等空調設備工事(今成)、プレハブ冷蔵庫改修工事(今成)	
評価の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の更新については、おおむね順調に進ちよくしています。 ・改修工事は少しずつ進んでいます。 				
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の更新については、引き続きアドバイザー業務委託を実施し、事業者の選定から事業契約の締結へと進めていきます。 ・既存施設の改修工事及び修繕については、計画的に実施します。 				

- 【方向性】 1 ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 2 安全・安心で質の高い教育を支える教育環境の整備・充実

施策の柱	(4)学校給食の充実				
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
	①食育の推進	教育指導課	細施策	施策の柱	
	②給食内容の充実	学校給食課	B	B	
	③学校給食施設の整備	学校給食課	C		
		B			
学識経験者意見等	食育の推進については、給食センターにいる栄養教諭や栄養士が学校に向いて行っている食育に関する指導を、引き続き実施していただきたい。				

- 【方向性】 1 ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 2 安全・安心で質の高い教育を支える教育環境の整備・充実

施策の柱	(5)市立川越高等学校の改革・充実			担当課	担当課評価
細 施 策	①市立川越高等学校将来構想の検討と推進			市立川越高等学校	B
施策の内容	第二次川越市立川越高等学校将来構想懇話会を設置し、「学科編制の在り方」「学校・学級規模の在り方」「教員の研修の在り方」「中高連携や中高一貫教育の在り方」について検討し、市民の負託に応える魅力ある市立高等学校づくりを推進します。				
平成26年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・学校学級規模の在り方については、すべての学科で35人少人数学級編成及び地域特別選抜を平成26年度も引き続き実施しました。 ・教員の研修の在り方については、異業種体験研修に教職員1人を派遣しました。 ・中高連携や中高一貫教育の在り方については、市内小中学校(16校)で授業指導・クラブ活動指導を実施し、城南中学校2年生204人を進路指導として、本校において授業を体験しました。 				
成果実績	項目名(単位)	H24	H25	H26	
	1年生の市内生比率(%)	37.6	35.1	32.4	
評価の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・成果実績は昨年度に比べ下がりましたが、入学志願者は普通科1.54倍、情報処理科1.29倍、国際経済科1.76倍と高く、多くの中学生から入学志願が寄せられています。 ・中高連携事業においては、城南中学校・野田中学校のソフトテニス部と年間を通して合同練習を実施するなど、おおむね順調に進ちよくしています。 				
改善の方策等	川越市立川越高等学校教育審議会を開催し、魅力ある市立川越高等学校づくりのため、継続的・多角的に将来構想について検討します。				

- 【方向性】 1 ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 2 安全・安心で質の高い教育を支える教育環境の整備・充実

施策の柱	(5)市立川越高等学校の改革・充実				
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
	①市立川越高等学校将来構想の検討と推進	市立川越高等学校	細施策	施策の柱	
			B	B	
学識経験者等 意見	特になし				B

- 【方向性】 1 ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 2 安全・安心で質の高い教育を支える教育環境の整備・充実

施策の柱	(6)教育センターの充実			担当課	担当課評価
細 施 策	①教育センターの整備・開放の充実			教育センター	A
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・教育センターの機能を充実させるため、教職員研修体制の整備を図るとともに、市民も活用できる施設となるよう推進します。 ・1階施設や体育館及び運動場は、市民に対して積極的に開放していき、研修施設としての設備は計画的に整備し、教育センター機能の充実を図っていきます。 				
平成26年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の貸し出しに関して周知され、利用団体が増えています。 ・1階施設は市民の使用を優先しています。体育館及び運動場は、教職員研修と重ならない場合において、市民に対し積極的に貸し出しを行いました。 ・休日や夜間の貸し出し時の管理業務を川越市シルバー人材センターに委託して市民が使いやすい環境整備を行いました。 				
成果実績	項目名(単位)	H24	H25	H26	
	1階施設利用者数(人)	1,067	2,669	7,317	
	体育館及びグラウンドの利用回数と人数(回/人)	197 / 9,069	606/20,433	755/22,186	
評価の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・運動場の貸し出しは、年間を通して毎週土日利用されています。 ・体育館の貸し出しも、年間を通して平日、土日、祝休日ともに多く利用されています。各種団体が利用している学校施設が利用できない期間(改修工事や卒業式等の学校行事)は特に、多くの団体が利用するため、調整をしながら貸し出しを行っています。 				
改善の方策等	各階のカーテン、体育館の雨漏り等の老朽化対策を行うとともに、教職員の研修、市民への貸出に対応するために駐車スペースの確保をする必要があります。				

施策の柱	(6)教育センターの充実			担当課	担当課評価
細 施 策	②家庭・地域との連携研修の充実			教育センター	B
施策の内容	不登校や情報モラル教育の諸問題など、今日的な教育課題解決のために、学校や家庭・地域との相互理解を目的とした家庭・地域と連携した研修の充実を図ります。				
平成26年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・講義「情報モラル教育の進め方」を通して、情報モラル教育の大切さを実感し、今後の日常生活に生かしていこうとする教員、保護者の意識が高まっています。 ・情報モラル教育を通して、親子のコミュニケーションが図られています。 				
成果実績	項目名(単位)	H24	H25	H26	
	研修会の開催(回)	2	2	1	
	参加者数(人)	84	123	103	
評価の理由	学校と家庭が課題解決に向けた共通理解を図ることを目的として、今日的な課題を取り上げた研修会を開催しました。参加者からは、「家で携帯電話について子どもと話してみたい」といった感想があげられ、おおむね順調に進ちよくしています。				
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の参加者を増やすために、研修会の通知方法の工夫を図ります。 ・講演会の内容については、情報モラル教育に関わる最新の問題を扱うこととし、情報モラルの確認を更に図っていきます。 				

【方向性】 1 ー生きる力を育む学校教育の推進

【施策】 2 安全・安心で質の高い教育を支える教育環境の整備・充実

施策の柱		(6) 教育センターの充実			
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
施策評価	①教育センターの整備・開放の充実	教育センター	A	A	A
	②家庭・地域との連携研修の充実	教育センター	B		
学識経験者等 学意 識 見 験 者 等	教育センター施設の貸し出しについては、多くの方が利用し、利用回数や人数が増加していることから、今後とも市民の方が利用しやすい施設の運営に心がけていただきたい。				